

碑文 訳

久居町本村合併記念碑

久居町は、藤堂侯が藩を開いた時、旧の本村の野辺野の平原を開発したところです。周囲を本村に囲まれ、久居町も本村も民俗風習（生活習慣・しきたり）も同じで境界が入り混じっている。

そのため、（明治22年4月の）町村制実施以来異なる町村になったが、もろもろの利害がお互いに関係しあっているの
で、まさに一体の自治体のように見ることが出来る。

そのため、両自治体を一つにあわせようという声が増しに地域全体に満ちてきている。

しかるに、最近（晩近（ばんきん））自治の制度がようやく整い、施設経営をするべきものがますます増えるに伴って、（運営の）実力を養成することが非常に大切であることから（翕然）一つに集まり、多年の懸案を解決しようとする機運を促進した。

すなわち集まって、しばしばその糸口を考えだそうとして止まってしまふ併合の議論が、昭和5年の終わりころ、思いがけず久居町と本村両者の間に起こり、互いに委員を選出して

(僅々)わずかひと月余りの日数で数回の会議で極めて円満に合意をした。昭和6年4月1日をもって、本村の地域一帯をあげて久居町に併合した。そもそも人々が言っているように、(天の時) 天が与えてくれた絶好の時であり、住民の理解と和を得ることができたため、名前は「併合」であるけれど、実際には藤堂高通公が開いた300年前のもとの形に戻しただけであると言えます。

将来町民の福祉を増進して、心を合わせて共に町民自治の発展に寄与することが多大であると疑うことがない。

後世に合併の喜びを伝えるために、その由来を石碑に刻んだ。それによってのちの子孫(後世)に伝えるものです。